



Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会会報

第11号 2005年2月ネパールの視覚障害者を支える会 (NBSA)

NBSA HP : <http://at.sakura.ne.jp/~ilte/nbsa/>

主内容 : 白杖を贈ろう/現地活動報告/ネパールの働く仲間/ネパールのカースト制度/
News★News★News/ネパールよもやま話/事務局だよりとお知らせ

白い杖、2千人に寄贈計画！



(表紙の写真は NBSA 現地のボランティア委員)

現在 NBSA カトマンドゥ支部には専従の職員がいません。すべてが現地ボランティアで運営されています。交通費と長距離電話料金などは、こちらで毎月支給しますが、他はすべて個人のボランティア精神で活動。時にはカトマンドゥ盆地から遠い学校にも出張します。写真のスタッフは会を運営する中核をなす人々で、他にイベントなどに飛んでくる、助っ人ボランティアも大勢いて、他団体からもボランティアの要請があるほど、NBSA はボランティア精神を重視した NGO です。

ネパール全国 2,000 人の視覚障害者に白い杖を！

1本の白い杖が人生を豊かに—ネパールの視覚障害者に白杖の夢を届けよう！

NBSAは毎年10月15日の国際白杖の日記念パレードに参加しています。日本ではあまり知られていない行事ですが、ネパールでは1月4日の国際点字の日と共に、盛大に祝います。「白い杖を持った人は視覚障害者です」と書いたプラカードを持っての行進です。白い杖を持った人がいたら、車は徐行してください、横断歩道では手を貸してください、という視覚障害者の希望がこめられています。ネパールでは白杖（はくじょう）を持っている人がまだまだ少なく、その意味を知っている人は皆無です。元をただせば1本の棒です。棍棒や竹に白ペンキを塗って使っている人もいます。さぞ重かろうなあ、と思っていました。周りの人々に気配りを呼び起こすには、白い杖を多くの人々に使ってもらったらよいだらう…。

私達はこう考えました。

ネパール国産の白杖に向けて

これまでネパールでは白杖をすべて外国からの支援や、インドからの輸入に頼っていました。ネパール国内では作られていない。1年に1度インドから大量に運ばれ、瞬く間になくなる。需要は高いのですが、供給は1年後などというのが現状です。そこで、私達は時間をかけて白杖の国産化を開発しました。ネパールの地形、道路状態、交通マナーなど多角的に調べました。その結果ネパールでは折りたたみ式より、まっすぐなタイプの方が向いていることがわかりました。医療機器を作っている企業に何種類か試作品を作ってもらい、全部試して適度な長さを3種類選びました。子供用、女性用、男性用。とりあえず試作品はどれも好評。ネパールには10万人の視覚障害者がいると聞きます。ほとんどの人は歩行訓練の経験もまったくありません。全員には無理としてもせめて、目の不自由なお年寄りに白杖を差し上げたい…。

ある日大変うれしい話しが持ち上がりました。鹿児島北ロータリークラブから、ネパールの視覚障害者の為に支援をしたい、という有り難い申出です。さっそくカトマンДУ支部で、パートナーになるロータリーと、パートナー・シップの契約を結びました。ネパールの目の不自由な人2,000人を対象にした白杖の寄贈です。国際ロータリークラブへの申請時期が目前に迫っている中、急遽ネパール支援が決定したものですから、通信網など不備の多い現地カトマンДУは大慌て。現地の反応を待っている、鹿児島北ロータリークラブやNBSA事務局はやきもき。正式な申請に至るまでの3週間は連日七転八倒の騒ぎとなりました。その甲斐あって、鹿児島北からのネパール支援が正式に決定。さらに台湾の台北和平ロータリークラブが、鹿児島北とタイアップでこの白杖寄贈プロジェクトに参加してくださることになりました。国際ロータリークラブから承認され、順調に進むと、日、台、ネの友好の花が開くのは、今年の初夏になりそうです。

寄贈式の日程は、ネットニュースでお知らせさせていただきますが、その頃ネパール訪問をお考えの方は、ぜひご参加ください。



ネパール現地活動報告

(2004年)

- 10月15日 国際白杖の日 NBSAは30名のボランティアの動員と、オリジナル・ビラ1,000部を市民に配布。
- 12月5日 国際障害者デーと国際ボランティアデーを記念して NBSA が平和コンサートを開催。ネパール在住の音楽家、西村氏の胡弓のソロ演奏と、平和をテーマにした詩の朗読。ネパール独特の笛や太鼓を一切使わず、各自に瞑想を体験してもらう、ネパールでは珍しい試み。マイクやスピーカーなしの生の音を満喫。
- 12月25日 視覚障害者児の親への啓発セミナーと親の会の発足

社会福祉協議会大ホールに青地に白と黄色の横断幕を張りました。英文で The Sensitization for the Parent of the Blind Children's Parents 和訳しにくい文言です。視覚障害児の親を刺激する、という意味ですが、早い話が啓発を強調したものです。人にとって子どもを持つとはなんでしょう、親の役割とはなんでしょう、障害を持たされた子どもを持つ保護者は何をすればよいのでしょうか。そして教育は？障害者も人としてまったく同じ権利があり、障害者のための特別な法律もあるのですよ。最終的にそうした親や保護者は、あなただけではないのですよ、と講演の内容が徐々にエスカレートする仕組みです。さらにバクタプル市の幼児期に失明した女性教師が、自分の生い立ちと現在の自分の生き方の話をしました。大変刺激的で、子育てに光を射すような内容でした。クライマックスの刺激は、親どうしのネットワークを作ったらどうでしょうか、とこちらから提案。「よし俺はやるぞ」とひとりのお父さんが立ちあがりました。親の会を作ろう、そしてカトマンドゥ盆地以外の孤立している村の視覚障害児のことも考えよう、と自発的に申し出ると、あつという間に有志が8名集まりました。セミナーには数人の教師も自主参加しました。先生にとってもまったく初めての経験です。当会のスタッフたちは、我々は本日ネパールの視覚障害者の運動に、新しい歴史を築いた、と大感激。

(2005年)

- 1月1日 国際点字のコンテスト 優勝は高等学校のスシル・アディカリ君。
- 1月4日 コンテスト優勝者へ賞状授与と「JICA 世界の笑顔のために」寄贈式。夢のような贈り物、カセットテープのダビング機械、読書拡大器、ルーペ等。
- 1月15日 親の会第一回会議 NBSA から代表2名が参加
ネパールにはPTAのような組織が、一部の私立学校にしかないで親は教師と対等に話す機会が皆無です。
アドバイスをするなど、NBSAは親の会の自立を今後も応援します。
- 1月～3月 カセットテー・プライブラリー事業着工。
昨年のアナウンサー講座の受講者を集めた、朗読ボランティアのオリエンテーション。音声の質に合わせて、ニュース解説、小説、児童書などの役割を決め、3月に月刊誌テープマガジン第1号を発行します。
応援してください



ネパールの働く仲間：

ラキシマン・プラサッド・ゲワリ氏（33歳） ムルキアインとネパールの障害者について語る



私は特に法律事務所など開設していませんが、障害者の基本的人権に関わる相談を受ける場合が多い。私自身先天的な視力障害者で、父は全盲、兄弟4人の内3人が視力に障害をもつ家庭に育ったせいで、障害者の置かれている状況が他の人よりよく理解できる、と自負しています。今日はネパールの民法ムルキアインについてお話しをします。ネパールの憲法では、宗教同様人間の平等、障害者の平等を謳っています。ムルキアイン民法には障害者が訴訟を起こした場合、文書を読み上げる、手話通訳を置く等の配慮や、障害者の保護などが書かれている半面、婚姻後失明などの障害を負った妻との離婚が許され、妻には再婚の権利がありませんでした。夫が障害者になった場合にはこの法律が適応されません。障害を負わされる事は「因果応報」によるもの、に近いニュアンスを匂わせた条文まであります。また、土地を購入する場合、高額の保険に加盟する時など、障害者の場合には保証人が必要になります。

ハンセン病に関する法律は非常に差別的で、ネパールは火葬の習慣がありますが、ハンセン病で亡くなった人は土葬をし、いかなる場合も決して触れてはならないし、住居の隔離などがなされます。近年になってハンセン病者に対する保護がなされ、最も自立の難しい人々と判定され、救済処置がなされるようになりました。様々な場面で障害者はプライベートが保証されていないと思います。私は今後、障害者の運動を通し、よりよい法律が施行されるよう、さらに勉強を続けていきたいと思っています。

最後に、私は国際会議で日本を訪問しました。日本で出会った障害者は、様々な点で未だに独立していない、と感じました。高度に発達した日本においても、基本的な点で障害者差別は同じでしょうか？様々な用具、施設、介助者に囲まれています、日本の障害者は本当に幸せなののでしょうか？便利には違いないのですが、どこか隔離されているように私は感じました。

牛は牛、水牛は水牛・ネパールのカースト制度

今回はネパールを知るためにはどうしても避けて通れない重大な問題を提起します。伝統的に受け継がれているカースト制度は、非常に奥が深いのですが、簡単に噛み砕いて説明しました。

ネパールにおけるカースト制度の歴史は意外に浅く、200年程度だといわれています。北インドからネパールに渡ってきて丘陵地帯に定住した、パルバテ・ヒンドゥーと呼ばれる人々は、高位カーストのブラーフマン（ネパール語でバフン）となりました。彼らは祭を司り、教鞭をとる階級の子孫であるので、農業をしている人でも子孫であればやはりブラーフマンで、身分が大変に高い。ついでカーストが高いのはタクリ（貴族）とチェトリ（クシャトリア・軍人）です。ネパールの国王は代々チェトリの家系から出ています。この二つのカース

トは、また政治的権力や経済力が強く、ネパールをほぼ牛耳っている形で存続しています。歴史的には、現在のネパール語を話す人々がこれらのカーストになりました。

ではヒンドゥー教が入って来る前から住んでいた、ネパールの先住民族はどうなったか、というと大別して2つに分けられます。ひとつはカースト制度を取り入れて独自に発展した民族。もうひとつは様々なカーストに組み込みこまれた人々。カーストを取り入れた民族の代表例が、ネワール族で、カトマンドウ盆地に華麗な文化を築きました。彼らにもデオバジュという司祭者

階級があり、以下なんと 80 以上に亘る細かいカーストがあり、最もカースト制度が徹底している民族です。

カースト制度に組み込まれた民族の多くは、ネパールに先住していた人々が多く、それが民族によって分類された人々が多いようです。グルンやマガル族の他、モンゴロイド系のチベット族、最も古いライやリンブーなど。彼らには原始宗教や仏教を信仰しているほか、ヒンドゥーを信仰している人もいますが、絶対に司祭者階級などの高位カーストにはなれません。

上記の 2 大カースト以外の人々は、どのような位置づけにあるかと言うと、上位の人々に仕える人々、いわばサーバントのような仕事に従属させられています。それをヒンドゥーの考え方によると、浄と不浄に分けられるようです。不浄である人の水を受けると、清浄の人は穢れると言われ、最もカーストの低い人々の水を触ったら、清めなければならないとされます。そこから接触可能な人と不可触な人という分け方をするそうです。

牛は神聖な生き物で、神様を乗せて運ぶ動物ですから食べてはならないのです。水牛は牛とよく似ているが、穢れた動物ですから、高位カーストの人は口にしません。見掛けはよく似ているのですが、牛と水牛は亜種が違う別々の生き物です。

決して交わることのない、この考え方をそっくりそのまま人間に当てはめているのが、カースト制度なのです。清浄カーストの人々は、神聖な牛のような存在なのでしょう。不浄のカーストに属する人々は、生まれながらにして奴隷化が可能ですから、子々孫々まで従属化を強いられます。彼らの職業は世襲的に決定され、屠殺、食肉処理、皮革加工、鍛冶屋、仕立屋、漁師、洗濯、清掃、売春婦などの他、吟遊詩人やネパールの流し「ガイネ」も、かなり下のグループです。



(上の写真：宗教儀式を行う最高位カーストのブラーフマン)

NBSA ネパールの視覚障害者を支える会

チャリティーコンサートと講演の夕べ

日時：平成 17 年 4 月 15 日(金) 17:30(開場) 18:00(開演)~20:00

場所：鹿児島市勤労者交流センター多目的ホール（鹿児島中央駅前キャンセ 8 階）

18:00~19:00 記念講演 講師 渥美 資子

19:00~20:00 コンサート

ソプラノ独唱 堀之内 孝子 ピアノ 村田 亜希子

コーラス 歌声さくら 指揮 中島 みどり ピアノ 田中 香織

2005年2月1日の国王宣言について

NBSA ネット・ニュースで詳細をお伝えしましたが、要約と近況をお知らせします。

2月1日テレビやラジオで、午前10時からギャネンドラ国王による重大な発表があるので、全国民が拝聴するよう呼びかけがあった。前日デウバ首相が、王室に呼ばれたことに関係があるのではないかと多くの人々はうすうす事の重大さに気が付いていた。それが的中したように、ネパールの近代史を大きく逆行するような発言がなされた。

デウバ首相は、2002年に解散した下院の選挙の実施に踏み切れず、マオイストとの和平交渉も開催できなかった理由で、首相を解任。1990年以降の多党制民主主義は、党利党略と個人的利益の追求を増長させ、派閥争いだけが激化し、国民の幸せを願うものではなかった。従って、国王が政治的権力を掌握し、今後3年間多党制を廃止し、国王自らが政治を行う事を宣言した。

さらに正午、国王は国家非常事態権限を発令した。これは国家の危機に際し、国王が非常事態の宣言を発することができる、という法律で、憲法第115条に記載されている。さらに国王は第115号に基づいて、種々の条項の一時中止を命じた。それらは、言論と表現、集会、移動の自由。印刷出版の権利。予防拘禁に対する権利。情報の権利。個人の財産権。プライバシーの権利などである。

この日を境にネパール全土の電話回線が切断され、従ってインターネットも停止し、完全に復旧を見るまでなんと1週間かかった。同日は国際空港も封鎖し、情報の収集や移動が不可能になり、ネパール駐在の各国大使館は抗議の声をあげた。国際世論や日本の反応は以外に早く、国連のアナン事務総長が、今回の政権の交代に遺憾と非難の声を上げると、欧米諸国やインドが、多党制民主主義の即時復活や拘束されている政党、人権団体のリーダー達の釈放を求めべく抗議した。英国とインドはすでにネパールへの軍事援助を停止している。これらの国際世論を鑑みたのか、ギャネンドラ国王は拘束、軟禁をしていた一部の人々を釈放している。

当然反対運動が燃え上がってもよさそうだが、政党のリーダーが現在拘束中であること。それにまずい事に、もとより反政府勢力であったマオイストの武力攻撃が、一気に激化したこともある。中国が「ネパールのマオイストを標榜する集団は、偉大な指導者毛沢東の思想とはまったく無縁である」という声明を出したほど、ネパールのマオイストは非人道的行為に走っている。そこで、一般国民は、簡単に反政府勢力にも荷担したくない状況に置かれている。

国王のクーデターとも云える、今回の政変に一般庶民のほとんどは貝の様子に口をつぐんでいるが、政治はお上の仕事、世辞は庶民の仕事と簡単に割り切れるものではない、と感じ始めている。ことにネパールの民主化以後に育った青年達は、情報収集など基本的人権を犯された、と受け止めた。ネパール国民の民度は、さほど低いわけではなかったようだ。このような前近代的な強権発動に不満をもっている人々がたくさんいるように見受けられる。そして多くの人々が最後に行き着く愚痴は、前の国王は良かった、につきる。ほぼ4年近くなる王室の虐殺事件を未だ忘れられない人々が、大勢いるということだろう。 (2005年2月28日現在)

- NBSA ネット・ニュース：毎月1回NBSAの活動状況やネパールのホットなニュース、果ては巷の噂話をお届けしています。音声パソコンにも対応できる編集をしています。ご希望の方はご連絡ください。 yoriko@mos.com.np
- ホームページのご案内：NBSAのホームページはイベントやネット・ニュースを常に更新しています。ネパールに関心がある方なら必見。<http://at.sakura.ne.jp/~ilte/nbsa/>



皆さんはヒマラヤの山中に住むイエティを知っていますか？ 本日はエベレスト山麓の、シェルパの村に泊まったときに聞いた話をしましょう。村人の半数くらいの人たちが真面目な顔をして、イエティに逢ったことがあるというのです。その時のことはたいいこのような話でした。夜暗くなって隣村から帰る途中、林の中に何か大きな動物の気配を感じて、恐ろしくなって走って村に戻ろうとした。こちらが駆け足になると、向こうも駆け足で追っかけてくる。必死に走って何とか村の近くまで、後ろを振り向くと、なんと大きな二つの目が闇の中に青白く燃えて光っている。肝をつぶさんばかりに驚いて、そのまま家の中に倒れこんだ。ここまでは覚えているけど、それから後のことはまったく記憶が無い、という話です。その後彼は怎么样了かという、そのままブルブル震えながら床にふし、1週間くらい高熱にうなされ、うわ言を言いながら、生死の境をさまよった。自分たちは幸いにも回復したけれど、そのまま一命を落とす村人も多いそう。村人の話ではこれがイエティなのだそうです。もちろん途中で追いつかれて、イエティに食べられてしまった村人もいるとのこと。それじゃ、目を見ただけでイエティがどんな動物か、見たことはないの？とたずねると、夜だからはっきりは見えてないけど、人間の2倍くらいの大きさだったと言います。でも日中に出くわしたらオスカメスカを確かめて、逃げ道を決めるそうです。オスだったら上に、メスだったら下に逃げなさい…。どうしてかって？オスの場合は、股間のイチモツがかなり大きく邪魔になって登りは苦手だそうです。そのかわり下りはその重さも手伝って、一気に駆け下りるそうです。メスはというと、乳房が大きく長いので、登りは乳房をヒョイと肩に担いで、猛烈な速さで斜面を登るそうですが、下りは乳房が足元を邪魔してうまく下れないそうです。ヒマラヤの山中で、このような怪物に出会わないことを祈ってますが、本当にいるんでしょうか、イエティって？

ネパールのサフラン

今回は、ヒマラヤ山脈の麓のカトマンドウ盆地の内外でサフラン栽培に取り組んでいるシニア海外ボランティアの報告です。

ネパールにはアユルベータ（今に生きる古代医学）で用いる薬草を始め、各種民族が用いている民間薬などの薬用植物資源は豊富です。ネパール王国政府としても、これらの植物資源から優れた医薬品の研究開発をしたいと望んでいますが、最新の分析機器などの研究設備が無く、人材技術にも乏しいため独自の開発は困難というより不可能に近い状況下にあります。そこで、現在高価に販売できる薬草を探して栽培し、多くの貧しい農民の現金収入アップに繋げようという議論している訳です。古来よりサフランは医薬として用いられ、現在も最も高価に取引されている生薬の一つです。サフランはその花の雌しべのみを採取して乾燥したものですので、“軽量かつ高価”で取引されるという訳です。40数年前から現在までに3回ほど多量の球根を国外から導入して試験栽培してきましたが、未だ思うような栽培方法が確立できずにいるようです。



1 昨年、“ネパールにサフランは適しているから、試験栽培を開始しよう”と促しても“サフラン栽培はもう終わっている”と誰も取り合ってくれなかったのですが、昨年春の頃からは、“サフラン栽培を成功させよう”と熱心に協力してくれるようになりました。少量の球根からのスタートですので増殖するのに数年を要する状況ですが、“必ず成功させる”という信念で根気良く増殖と試験栽培に取り組んで欲しいと念願しています。（ご寄稿：白井英夫氏）

事務局だより



JICA の NGO 支援、技術者派遣制度で二羽泰子さんが、5 月中旬から 2 ヶ月間、ネパールでボランティア活動を行います。目の不自由なボランティアが海外からネパールに来たことがなく、また日本から送ったこともない異例の技術者です。泰子さんご自身は、その若さに似合わず、欧米のみならず東南アジア諸国での留学と生活経験が豊かな人です。9 月の訪問の際には、ネパールのダル・パートも好き、とおっしゃって、スタッフをほっとさせました。

2005 年度の重要な目標のひとつとして、現地スタッフは泰子さんから学びたい事を討議しています。特に障害者団体の若い人々を対象にした、リーダーシップ・トレーニング講習と学生寮を舞台に身辺自立訓練を希望しています。

福祉ふれあいフェスティバルに参加

多くの市民に福祉への理解と関心を深めてもらうために、鹿児島市福祉協議会が企画して 11 月 7 日に鹿児島アリーナ及び永吉中央公園で開催された「第 13 回福祉ふれあいフェスティバル」に NBSA は福祉団体による活動紹介展示コーナーの一角にブースをもうけて、春と秋のスタディーツアー、夏のクイズ大会などの写真展示を行うとともに、会報及びパンフレットを来場者に配布した。

ボランティアフェスタに参加

鹿児島市福祉協議会主催で 2 月 13 日に鹿児島市中央公民館で開催されたボランティアフェスタに参加し、ボランティア団体活動パネルコーナーに NBSA ブースをもうけて広報活動を行った。

予告 「NBSA 総会」と「チャリティーコンサートと講演の夕べ」

NBSA は来る 4 月 15 日(金)、鹿児島市で総会を行うとともに、鹿児島市勤労者交流センターで、午後 6 時から「チャリティーコンサートと講演の夕べ」を主催します。会員の皆様のご参加をお願いします。

ウォークマン人気者！

皆様のご協力を得まして、現在 7 台のウォークマンを学生に貸し出し、授業の補助教材にしています。今後ともご不要となりましたウォークマンをご寄贈の程、お願いいたします。

2004 年度会費納入のお願い

NBSA 会計年度も後 1 ヶ月となり、会費未納の会員に振込み用紙を同封させていただきました。納入後にこの会報を受け取った方はご容赦ください。運営費のほとんどが、皆様方個々の会費によるものです。インド洋津波の災害もさることながら、途上国の中でも最も景気が低迷しているネパールへ、ご支援賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

Nepal Blind Support Association (NBSA) Yoriko Atsumi P. O. Box: 8974 PCN-111 Kathmandu, Nepal Tel: 977-1-4356-357 E-mail: yorikonepal@hotmail.com
--

《日本の事務局》 〒890-0064 鹿児島市鴨池新町 27-1-1108 上田佳代子 Tel & Fax: 099-258-6685 E-mail: ilte@at.sakura.ne.jp NBSA HP: http://at.sakura.ne.jp/~ilte/nbsa/
--

維持会費：個人会員年間 6,000 円 / 法人会員年間 15,000 円

振込先：郵便振替 01790-7-74222 (ネパールの視覚障害者を支える会)
--